

強度行動障害の理解Ⅲ

- ・ 困っていることの体験

この時間の受講環境について

- マイクは、ミュートにしておいてください。



※発表や質問時のほか、指示があった場合のみマイクをオンにしてください。

- カメラはオンにしておいてください。



※指示があった場合のみ、オフにしてください。

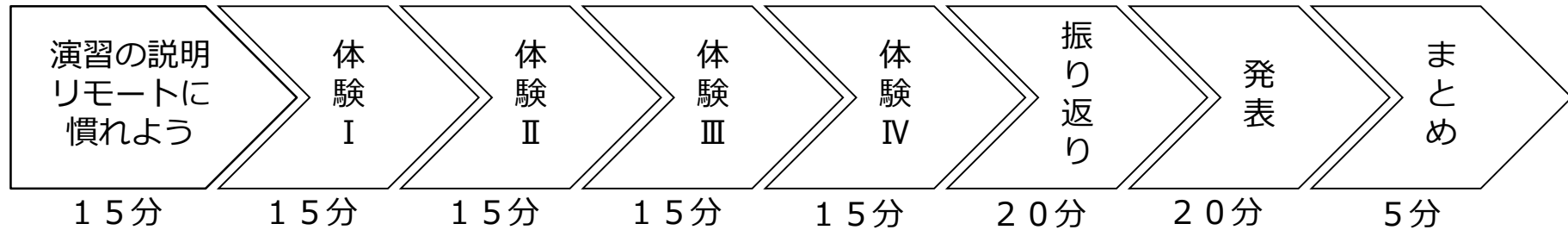
- 演習でチャットを使う場合は「全員に送る」を使います。

※指示があった場合のみ、チャットを使います。

この時間で学ぶこと

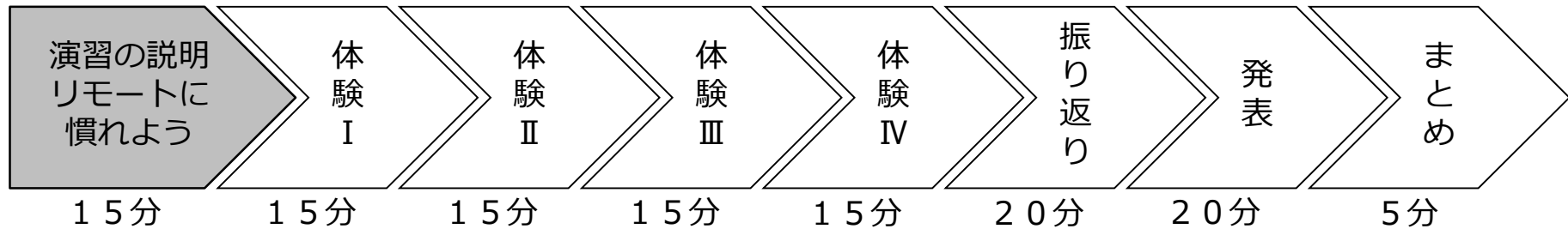
- 強度行動障害は本人が強い困惑を感じ、その解決策が見い出せないまま、なんとか抜け出そうともがいている状況と考えることもできます。
- この時間は、私たち支援者がどんな困惑を感じさせてしまっているのか、強度行動障害の状態にある方々の立場になって体験します。
- もちろん感じ方は人それぞれ違うと思いますが、自分たちの体験レベルよりもはるかに強い困惑を感じてこられた方々であるという思いを持ちながら研修を進めていければと思います。

演習の流れ



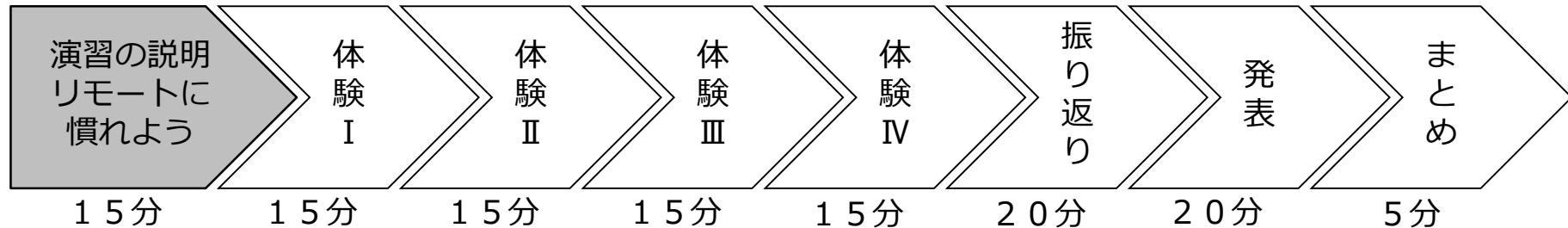
- まずリモート環境に慣れるために、いくつかのゲームをしましょう。
お互いの（心理的な）距離も縮まるかもしれません。
- 体験メニューは4パートあります。
何を体験しようとしているのかを考えながら、積極的に参加しましょう。
- 途中で何を感じたか、数名に発表してもらおう場面もあります。
- 最後にそれぞれで振り返りを行い、発表します。

リモートに慣れるためのウォーミングアップ①



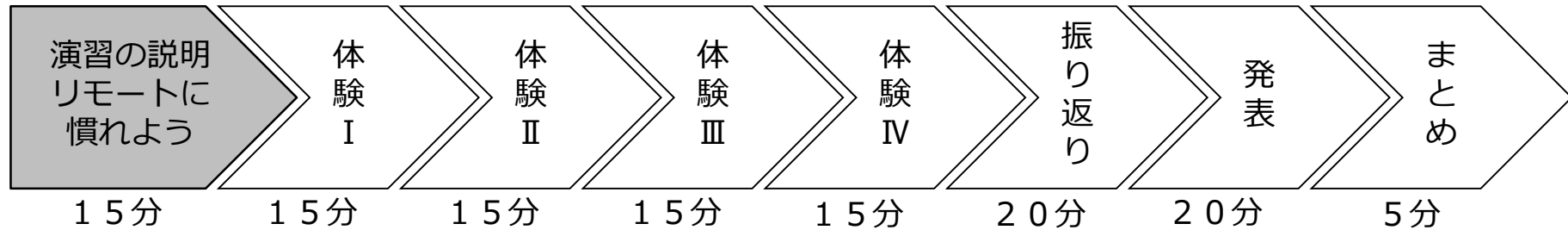
- まずはウォーミングアップ代わりにいくつかのゲームをしましょう。
- 最初にするのは、ジャンケン大会です。講師とみなさんが一斉にジャンケンをします。最後まで残る強運の持ち主はだれでしょうか。
- 全員**マイク**は**オフ**、**カメラ**は**オン**でお願いします。
- 講師と一斉ジャンケンをして、
 負けた人はカメラをオフにしてください。
 勝った人とあいこの人はオンのままです。
- 最後に何名か残ったら、せっかくなので、その人たちには**マイクをオン**にしてもらい自己紹介をしていただきます。「お名前」、「ご所属」、「今日はどこから研修に参加しているか」、「講師からのお題について」をお話いただきます。

リモートに慣れるためのウォーミングアップ②



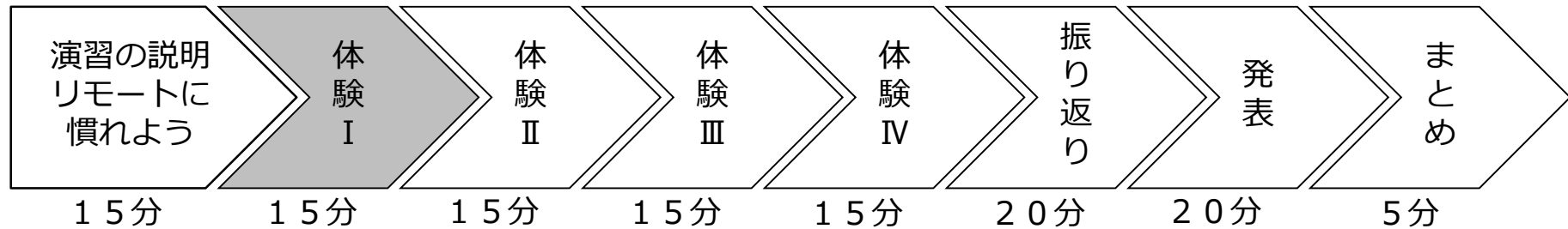
- 続いては、講師との共通点ゲームです。講師と共通点があってもうれしくないというか、かえって迷惑かもしれませんが、一応リモートに慣れるためのウォーミングアップのひとつということでお許してください。
- 講師がこれから自分のことを言います。それに当てはまらない人はカメラをオフにしてください。例えば、「ボクは男です」と言ったら、それに当てはまらない人、つまり女の人にはカメラをオフにします。
- 最後に数名残ったら、せっくなのでその人たちにも自己紹介をしていただきます。先ほどと同じく、「お名前」、「ご所属」、「今日はどこから研修に参加しているか」、「講師からのお題について」をお話いただきます。

リモートに慣れるためのウォーミングアップ③



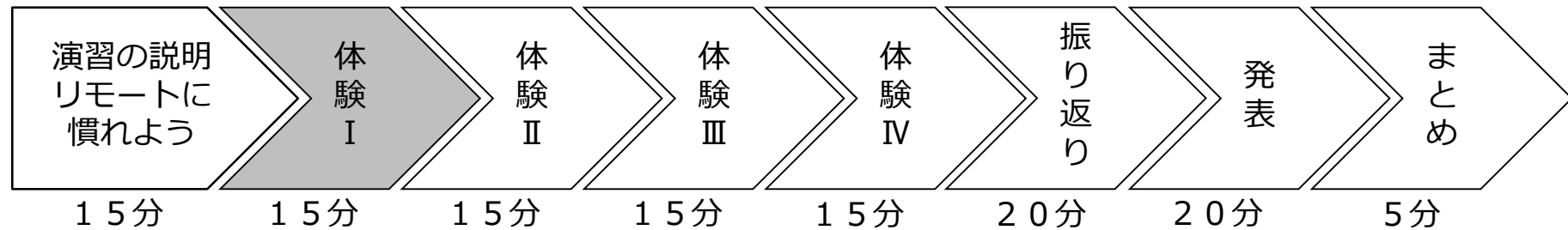
- 最後は、みなさんに今日の番号をお伝えします。
- 演習の中でモデル的な役割を果たしてもらったり、発表してもらったりするときに、講師が番号を指定しますので、自分の番号を覚えておいてください。
- お一人ずつ番号をお伝えしますので、番号を聞いたらその番号を復唱してください。
それから**マイクをオフ**にします。

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ①



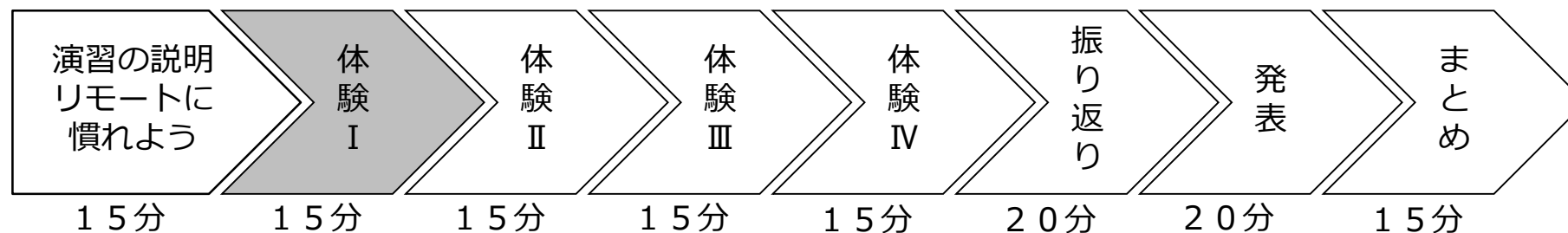
- ○番の方にモデル役をお願いします。
- ここでの体験での対象者は、このモデル役の人になります。
- **モデル役の人へ**
 - ➡みなさんに伝えてほしいことがあります。
頭の中に自分の好きな食べ物を思い浮かべてください。
- その食べ物を顔全体は動かさずに首から上だけを使って伝えましょう。
- 残念ながら、口は開けないでください。口は閉じたままです。
でも頑張って必死に伝えましょう。
- **モデル役以外の方へ**
 - ➡定期的に講師が番号を言いますので、その番号の方は**マイクをオン**にして回答してください。もちろん、わからないときは正直にそうお答えください。

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ②



- 次は○番の方にモデル役をお願いします。
- **モデル役の人へ**
 - ➡みなさんに伝えてほしいことがあります。
頭の中に自分の好きな動物を思い浮かべてください。
- その動物を顔全体は動かさずに首から上だけを使って伝えましょう。
- 残念ながら、口は開けないでください。口は閉じたままです。でも頑張って必死に伝えましょう。
- **モデル役以外の方へ**
 - ➡定期的に講師から番号を言いますので、その番号の方は**マイクをオン**にして回答してください。
もちろん、わからないときは正直にそうお答えください。前と異なるのは、数名の方を別に指名します。その方々は**マイクを最初からオン**にして、モデル役の方がパフォーマンスするたびに「わかんないなあ」「何なんだ？」など、否定的な言葉をつぶやいてください。

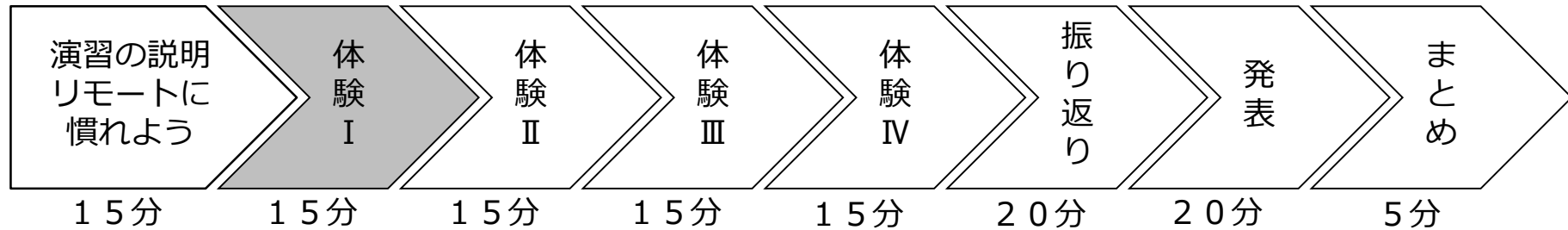
体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ③



ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。

この体験はモデル役の人が対象者なので、モデル役になった数名の方に聞いてみます。

体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ④



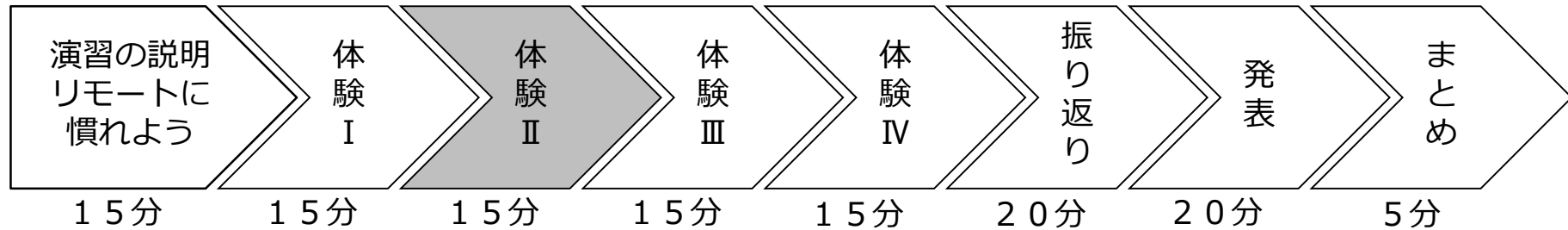
- ここでみなさんに体験してほしいかったこと

コミュニケーションの特性

【発信が難しい】

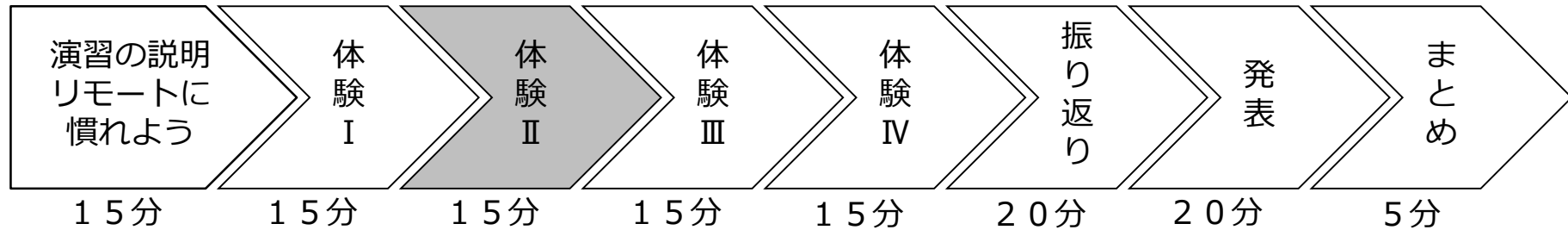
- ・ 話し言葉で伝えることが難しい
- ・ どのようにして伝えたらいいかわからない

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛①



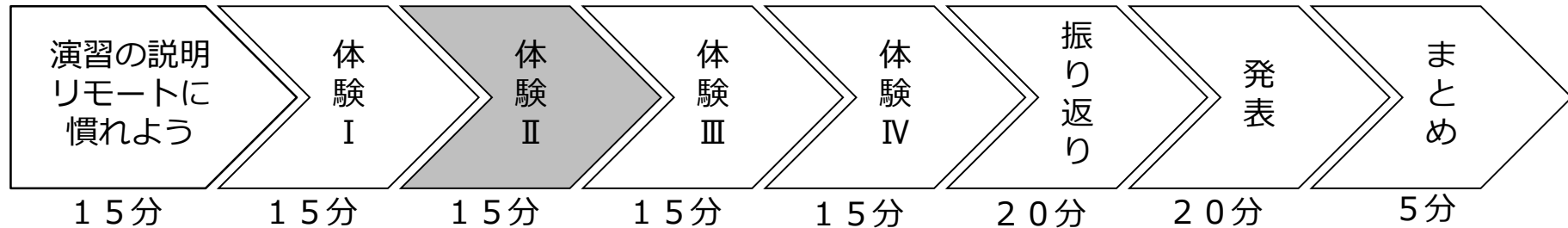
- この体験での対象者はみなさん全員です。
- 講師が言葉だけでとある漢字の説明をします。みなさんはその言葉の情報だけでその漢字を再現してください。
- A4白紙にその漢字を描いてください。
- 講師の説明が終わったら、カメラに向かって漢字を提示していただきます。

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛②



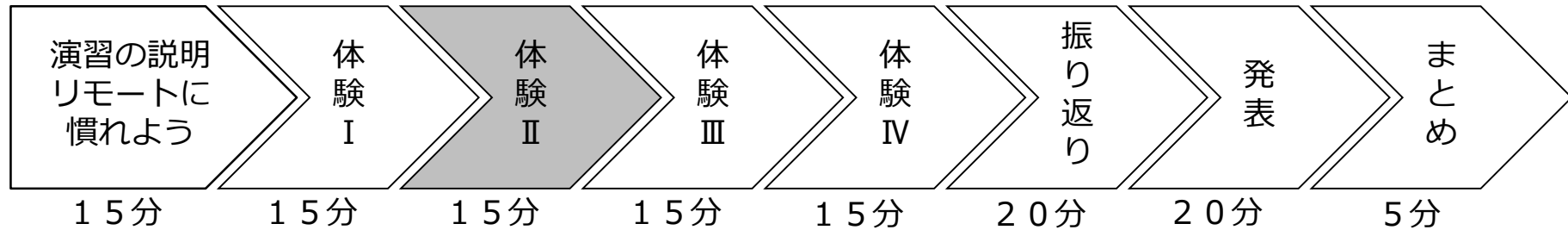
- 今度は講師が言葉だけでとある図形の説明をします。
みなさんはその言葉の情報だけでその図形を再現してください。
- A4白紙にその図形を描いてください。
- 説明が終わったら、カメラに向かって図形を提示していただきます。

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛③



- ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験はみなさんが対象者なので、何名かに聞いてみます。
- ○番の人は、**マイクとカメラをオン**にしてください。

体験Ⅱ 意味のわからない苦痛④



- ここでみなさんに体験してほしいこと

コミュニケーションの特性

【理解が難しい】

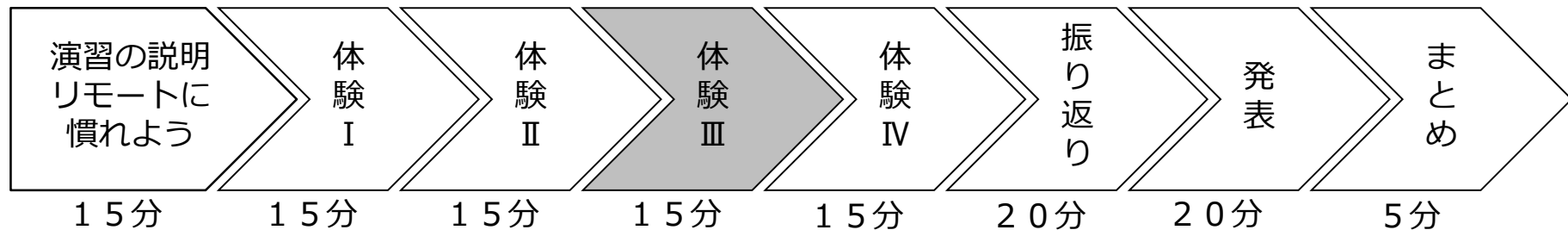
- 話し言葉の理解が難しい
- 抽象的であいまいな表現の理解が難しい

社会性の特性

【状況の理解が難しい】

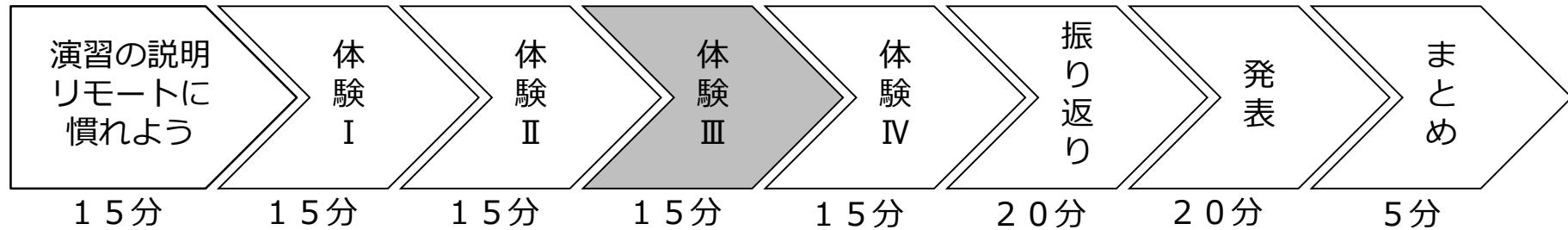
- 見えないものの理解が難しい

体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖①



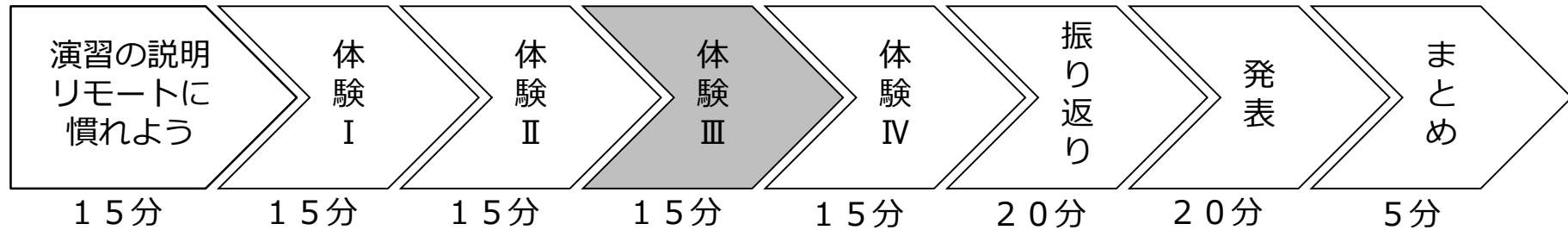
- この体験は一斉に行います。
- まずは、この動画をちょっとだけご覧ください。
体験の一部ですので、よく見ていてくださいね。
- そして、チャットから指示が出ますので、**チャット**に書き込めるようにしてください。

体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖②



- ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験は全員が対象者になりましたので、何名かに聞いてみます。
- ○番の人は、**マイクをオン**にしてください。

体験Ⅲ 見通しのもてない不安や恐怖③



- ここでみなさんに体験してほしいこと

想像力の特徴

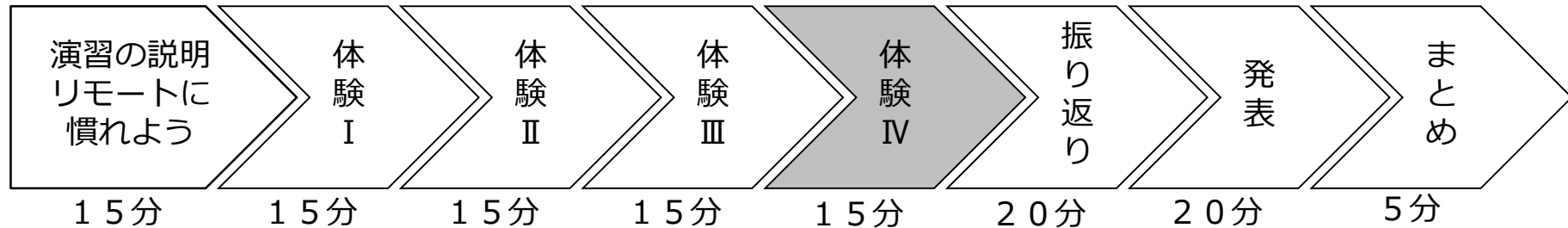
【自分で予定を立てることが難しい】

- 段取りを適切に組むことが難しい

【変化への対応が難しい】

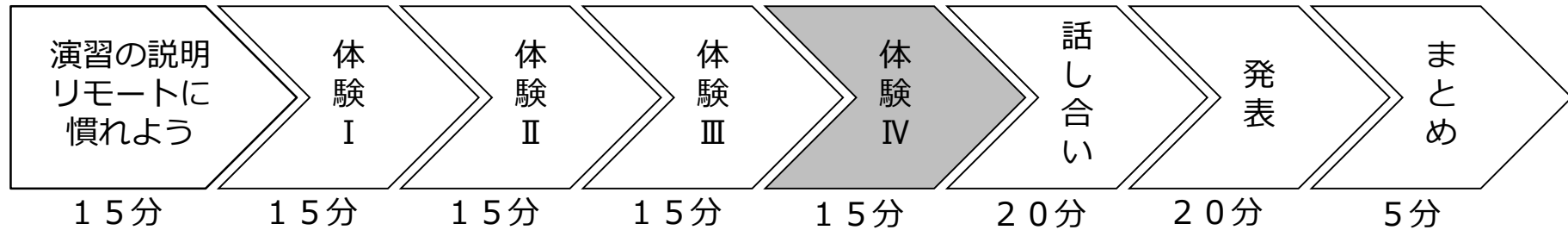
- 先の予測をすることが難しい
- 臨機応変に判断することが難しい

体験Ⅳ 感覚の特異性①



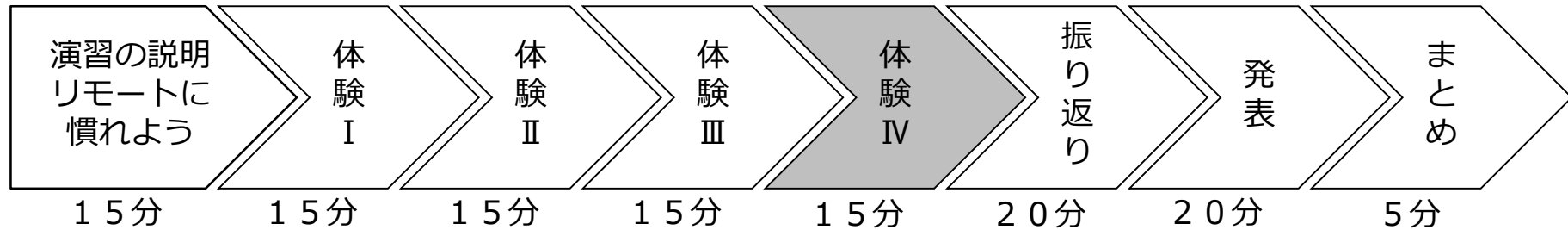
- ここでの体験は、ほぼ全員にご協力をいただき、3名の方が回答者（対象者）になります。
- 回答者は番号でお知らせしますので、その方は指名されたら**マイクをオン**にしてお答えください。
- それ以外の協力いただく方々は、指示がありましたら**マイクをオン**にしてください。
- 協力者の方々にはそれぞれ頭の中に行ってみたい観光地を思い浮かべてもらいます。それを同時に言っていただき、回答者（対象者）の人はどれだけ聞き取れるかという体験です。

体験Ⅳ 感覚の特異性②



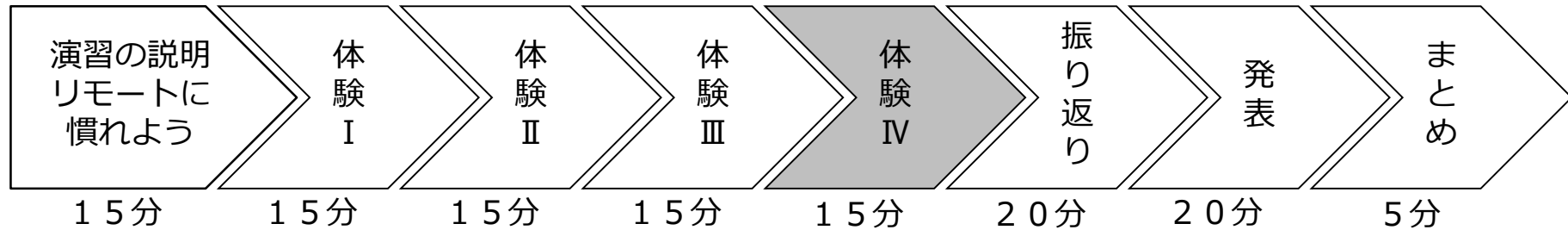
- 2つめの体験は、全員が対象者です。
- 講師がある写真を見せたり、ライトをカメラに近づけたりします。
- その刺激が少しでも不快に感じたり強く感じたりした人は目をつぶってください。

体験Ⅳ 感覚の特異性③



- ここでの体験で、強度行動障害の方々の困惑についてみなさんは何を感じたでしょうか。この体験はほぼ全員が対象者になりましたので、何名かに聞いてみます。
- ○番の人は、**マイクをオン**にしてください。

体験Ⅳ 感覚の特異性④



- ここでみなさんに体験してほしいかったこと

感覚の特性

【感覚が過敏または鈍感】

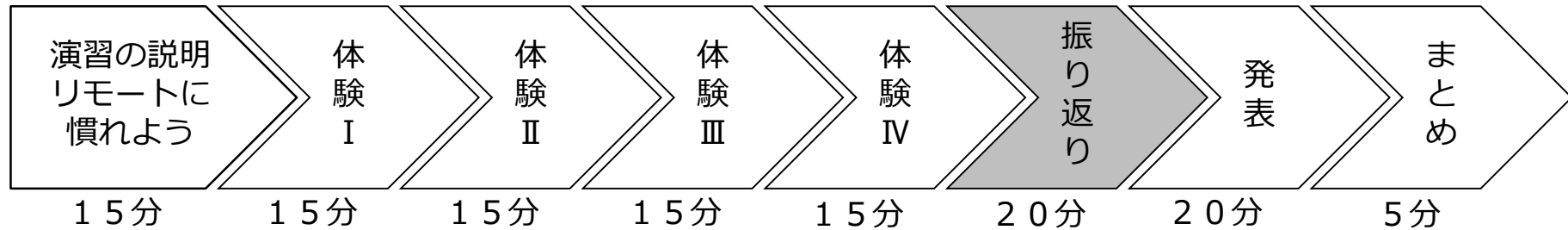
- 聴覚の過敏や鈍麻がある
- 視覚の過敏や鈍麻がある

想像力の特性

【物の一部に対する強い興味】

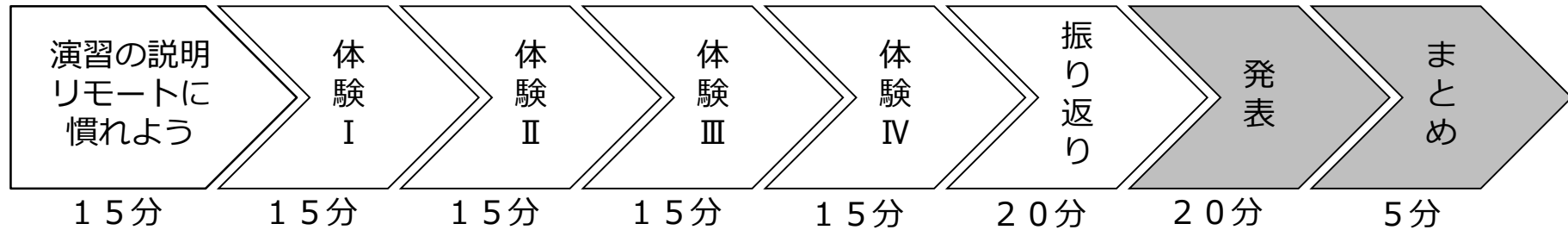
- 興味関心が狭くて強い
- 細部が気になり違いに敏感

振り返り



- グループに分かれて話し合います。
- この体験で自分が感じたことや考えたことをグループで交流します。
- せっかくなので、グループ内で自己紹介をしてから、司会者・発表者・記録者を決めます。ワークシートの使い方等については、講師から指示があります。

発表・まとめ



- 発表役の方にグループで話し合われたことを報告してもらいます。
発表するときは**マイクをオン**にしてください。
- 最後に講師からまとめをしてこの演習は終了です。